



データでみる福島再生

最近の動き

○除染等工事の進捗状況

- ・特定復興再生拠点区域における除染等工事全体の進捗は約89%です。

○除染仮置場等の状況（福島県内）

- ・仮置場等総数1,371箇所のうち、124箇所で除去土壌等を保管中、1,247箇所で搬出が完了し、925箇所の仮置場で原状回復が完了しました。

○中間貯蔵施設の整備の現状

- ・除去土壌の分別処理を行い、1月末時点で、約975.2万 m^3 （輸送量ベース）の土壌を土壌貯蔵施設に貯蔵しました。
- ・廃棄物の焼却及び焼却灰の灰処理を行い、1月末時点で、灰処理ばいじんを封入した鋼製角形容器10,225個を廃棄物貯蔵施設に貯蔵しました。

○中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送の進捗状況

- ・2022年1月末時点で、約1,261万 m^3 の除去土壌等（帰還困難区域を含む）を中間貯蔵施設へ搬入しました。

○中間貯蔵施設用地の状況

- ・用地取得については、1月末時点で契約者数1,839人、面積約1,265haについて契約しております。

○国直轄による対策地域内廃棄物等の処理進捗状況

- ・災害廃棄物等の仮置場への搬入については、12月末時点で、約318万トンの搬入を完了しました（うち、約55万トンが焼却処理済、約207万トンが再生利用済）。
- ・被災家屋等について、12月末時点で、約17,600件の解体撤去申請を受付済みであり、約16,900件を解体撤去済みです。

○国直轄による対策地域内における仮設焼却施設の設置状況

- ・12月末時点で、約134万トン（除染廃棄物を含む）を各仮設焼却施設で処理しました。

○特定廃棄物埋立処分施設への搬入状況

- ・1月末時点で、212,677袋を特定廃棄物埋立処分施設へ搬入しました。

○放射線に関するリスクコミュニケーション活動状況

- ・放射線リスクコミュニケーション相談員支援センターにおいて、研修会を2回、住民セミナーを20回、車座意見交換会を2回実施しました。
- ・環境再生プラザにおいて、専門家派遣を1回実施しました。
- ・内部被ばく検査（WBC）を3日間実施しました。
- ・ガンマカメラを活用し、仮置場の原状回復後の放射線測定を8台日実施しました。

※いずれも、新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じて実施しました。

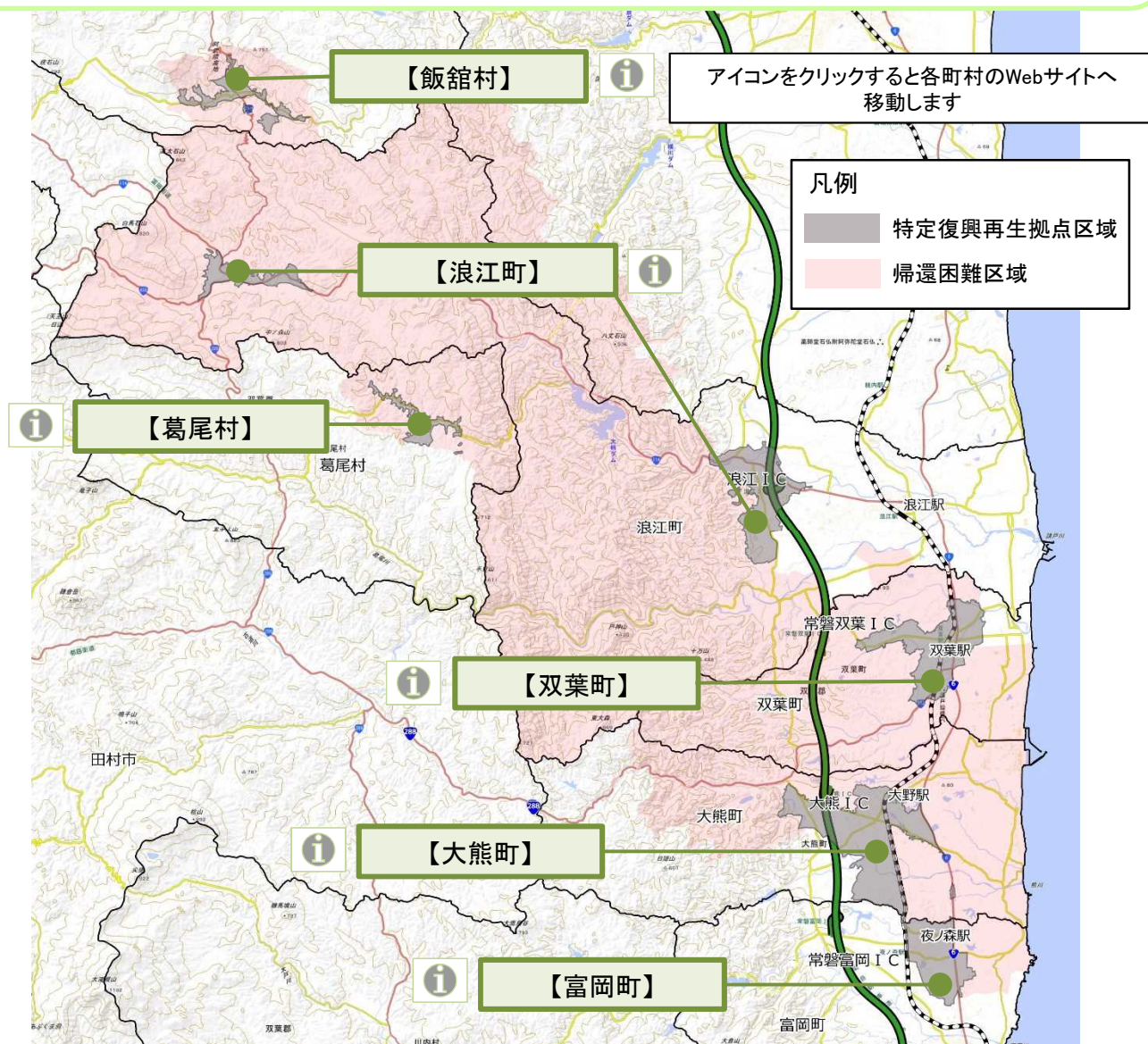
○帰還困難区域等における鳥獣の捕獲状況

- ・今年度の捕獲数は、2022年（令和4年）1月末現在でイノシシ1,347頭、アライグマ256頭、ハクビシン61頭となっています。

特定復興再生拠点区域整備の進捗状況

概要

- 「特定復興再生拠点区域」は、帰還困難区域内に定められた、避難指示解除を目指し、除染や家屋解体などの環境再生事業をインフラ整備と一体的に進めていく区域です。
- 市町村長は、特定復興再生拠点区域の設定及び同区域における環境整備（除染やインフラ等の整備）に関する計画を作成し、同計画を内閣総理大臣が認定します。復興再生に向けて計画を推進しているところです（計画認定から5年を目途に避難指示解除を目指すこととなっています）。
- これまでに、以下6町村の計画が認定され、全ての町村において家屋等の解体・除染等を実施中です。
- 令和2年3月に双葉町の一部（双葉駅周辺）、大熊町の一部（大野駅周辺）、富岡町の一部（夜ノ森駅周辺）で避難指示が解除されました。



- ・ 特定復興再生拠点区域における除染等工事全体の進捗は約89%で、各町村における進捗状況は以下のとおりです。

町 村 名	認定日	着工日	避難指示 解除目標	除染進捗
双葉町	2017. 9.15	2017.12.25	2022年春頃	約87%
大熊町	2017.11.10	2018. 3. 9	2022年春頃	約89%
浪江町	2017.12.22	2018. 5.30	2023年3月	概ね終了
富岡町	2018. 3. 9	2018. 7. 6	2023年春頃	約80%
飯舘村	2018. 4.20	2018. 9.28	2023年春頃	概ね終了
葛尾村	2018. 5.11	2018.11.20	2022年春頃	概ね終了

■ 注1) 進捗(%)は、当該町村の特定復興再生拠点区域復興再生計画範囲にある除染対象箇所を集約した面積(飯舘村は環境再生事業区域を除く)に対する、除染実施面積の割合です。

■ 注2) 除染進捗は速報値のため、今後の精査によって変わる可能性があります。

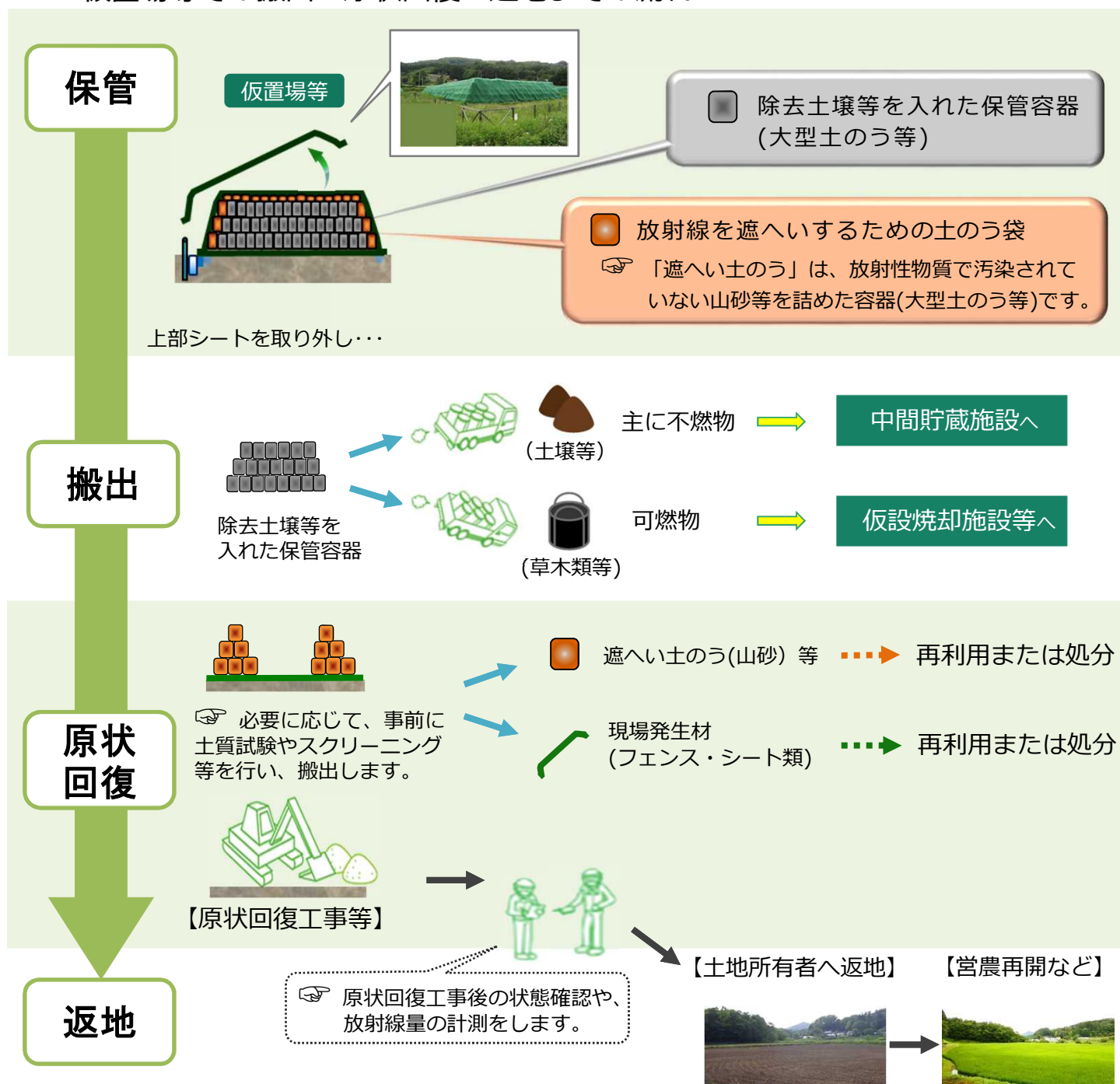
福島
再生。

福島県内の除染仮置場等の状況

概要

- ・ 除染で取り除いた除去土壌等は、仮置場等の一時的な保管場所で適正に管理しています。
- ・ 保管をしている除去土壌等は、中間貯蔵施設又は仮設焼却施設等へ搬出します。
- ・ 搬出が完了した仮置場については、順次、遮へい土のう等の搬出・活用を始め、原状回復工事を行った後に、土地所有者へ返地します。

● 仮置場等での搬出～原状回復～返地までの流れ



仮置場等の状況

- 仮置場等総数1,371箇所のうち、124箇所で除去土壌等を保管中、1,247箇所では搬出が完了し、925箇所の仮置場で原状回復が完了しました。

直轄除染 2021年12月末時点 市町村除染 2021年9月末時点	仮置場等の総数	うち 保管中	うち 搬出完了	うち 原状回復完了 (返地済み)
除染特別地域 (直轄除染)	331	61	270 (82%)	171 (52%)
汚染状況重点 調査地域等 (市町村除染)	1,040	63	977 (94%)	754 (73%)
合計	1,371	124	1,247 (91%)	925 (67%)

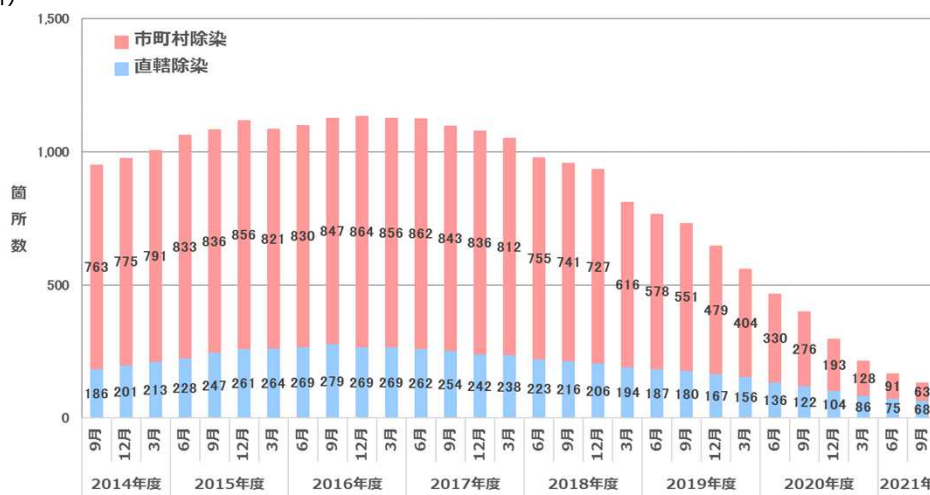
注1)
仮置場等：仮置場のほか、一時保管所、仮仮置場等を含みます。
注2)
保管中：除去土壌等が保管されている仮置場等を示します。
注3)
搬出完了：除去土壌等の搬出が完了した仮置場等を示します。
注4)
原状回復完了：原状回復等が完了した仮置場等を示します。
注5)
搬出完了及び原状回復完了の欄に記載の()は、仮置場等の総数に対する割合を示します。

(出典) 汚染状況重点調査地域等(市町村除染)は、「市町村が設置する仮置場等の状況について(令和3年12月2日福島県生活環境部除染対策課 公表資料)」より環境省作成。

●保管中仮置場等の箇所数の推移

(2021年9月末時点)

(箇所)



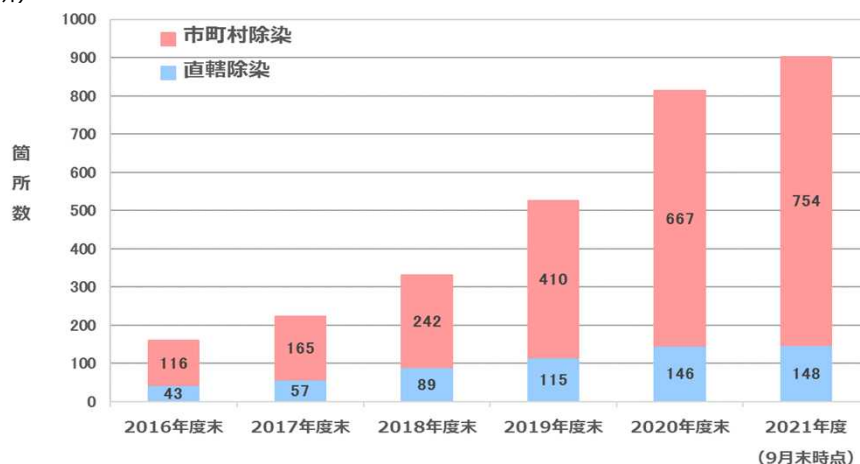
※仮置場の統合等により公表当時の数値とは異なります。

※市町村除染の2018年3月時点以前については、返地前の仮置場等数(「その他の仮置場」は除く)です。

●原状回復が完了した仮置場等の箇所数の推移

(2021年9月末時点)

(箇所)



※2020年度までは各年度末(3月末時点)、2021年度は9月末時点の仮置場等の箇所数です。

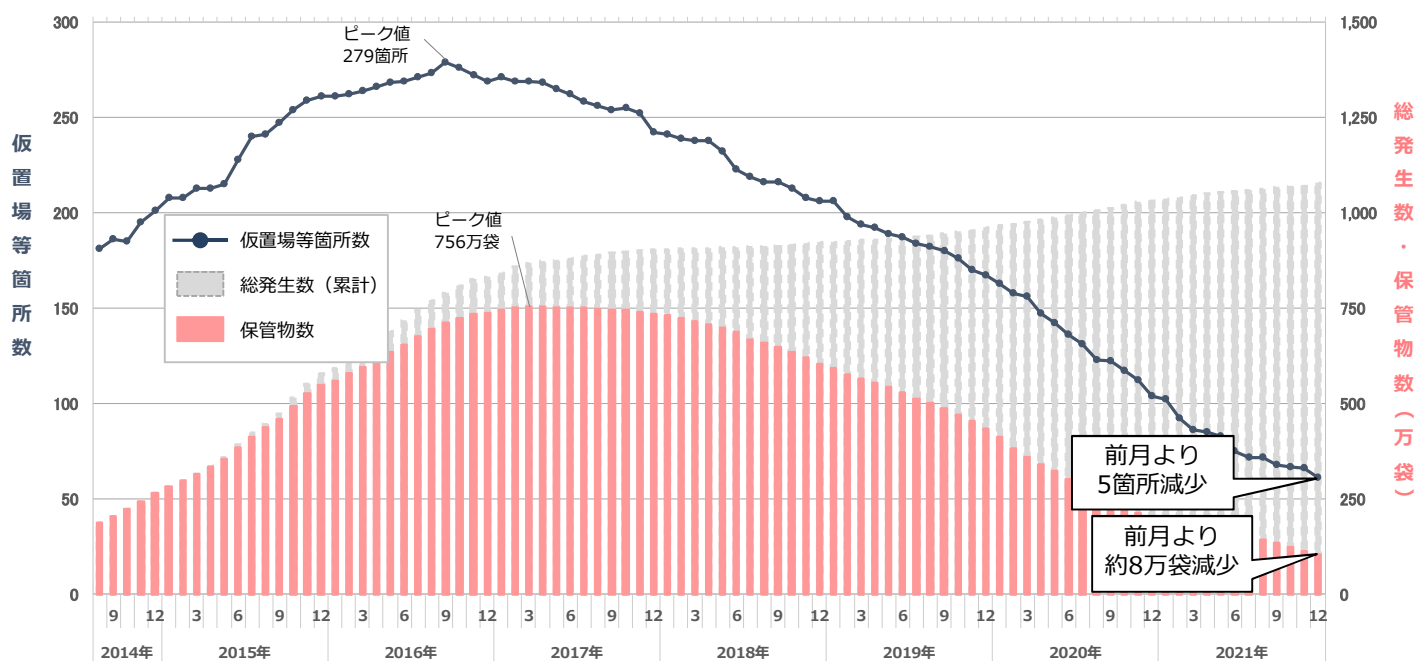
<参考>

除染特別地域（直轄除染）における仮置場等の状況

●除染特別地域（直轄除染）の市町村別状況

市町村	仮置場等の総数	うち 保管中	うち 搬出完了	うち 原状回復完了
田村市	6	0	6	5
川内村	2	0	2	2
檜葉町	25	1	24	16
大熊町	18	4	14	13
川俣町	43	4	39	15
葛尾村	36	1	35	23
飯舘村	104	35	69	39
南相馬市	18	1	17	8
浪江町	46	8	38	28
富岡町	22	5	17	14
双葉町	11	2	9	8
合計	331	61	270	171

●保管中仮置場等箇所数と保管物数の推移



	2021年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
仮置場等箇所数（箇所）	102	92	86	85	83	75	72	72	68	67	66	61
総発生数（累計）（万袋）	1,038	1,042	1,046	1,051	1,054	1,058	1,061	1,064	1,067	1,071	1,075	1,078
保管物数（万袋）	187	186	187	181	173	163	152	144	136	125	114	106

注1) 仮置場等箇所数：除去土壌等を保管している仮置場等の箇所数を示します。

注2) 保管物数：仮置場等で保管している数で、単位は「袋」で1袋当たりの保管物の体積は、おおむね1m³です。（ただし、保管物の体積減少により、1袋が1m³より小さくなる場合もあります）。

注3) 除去土壌等の総発生数約1,078万袋の内訳は、保管物数約106万袋、搬出済み数 約972万袋です。

（うち仮設焼却炉への搬出は約300万袋、中間貯蔵施設等への搬出は約671万袋）

※数値は四捨五入して表記しているため、合計値は表示上の数字の合計と一致するとは限りません。

<参考>

汚染状況重点調査地域等（市町村除染）における仮置場等の状況

（2021年9月末時点）

方部	市町村	仮置場等の 総数	うち 保管中	うち 搬出完了	うち 返地済み
県北	福島市	46	10	36	14
	二本松市	353	15	338	315
	伊達市	120	6	114	54
	本宮市	25	4	21	11
	桑折町	38	0	38	32
	国見町	11	0	11	3
	川俣町	22	0	22	0
	大玉村	13	0	13	13
県中	郡山市	35	16	19	12
	須賀川市	100	5	95	91
	田村市	100	0	100	86
	鏡石町	4	0	4	3
	天栄村	14	0	14	10
	石川町	1	0	1	1
	玉川村	1	0	1	1
	平田村	1	0	1	1
	浅川町	0	0	0	0
	古殿町	1	0	1	1
	三春町	6	0	6	0
	小野町	3	0	3	3
県南	白河市	11	1	10	9
	西郷村	3	2	1	0
	泉崎村	6	1	5	5
	中島村	1	0	1	1
	矢吹町	4	0	4	3
	棚倉町	12	0	12	12
	矢祭町※	0	0	0	0
	塙町※	1	0	1	1
	鮫川村※	1	0	1	1
会津	会津若松市	1	0	1	1
	猪苗代町	6	0	6	6
	会津坂下町※	1	0	1	1
	湯川村※	1	0	1	1
	柳津町※	0	0	0	0
	三島町※	0	0	0	0
	昭和村※	1	0	1	1
	会津美里町※	1	0	1	1
南会津	下郷町	1	0	1	1
	南会津町	0	0	0	0
相双	新地町	1	0	1	1
	相馬市	5	0	5	2
	南相馬市	37	2	35	24
	広野町	1	0	1	0
	川内村	10	0	10	1
いわき	いわき市	41	1	40	31
合計		1,040	63	977	754

注1) 「市町村が設置する仮置場等の状況について（令和3年12月2日 福島県生活環境部除染対策課 公表資料）」より環境省が作成しています。

注2) 網掛けは、汚染状況重点調査地域に指定されていない市町村です。「※」は、指定解除された市町村です。（なお、大玉村につきましては、令和3年12月27日付けで汚染状況重点調査地域の指定が解除されました。）

注3) 保管中 : 除去土壌等が保管されている仮置場等を示します。

注4) 搬出完了 : 除去土壌等の搬出が完了した仮置場等を示します。

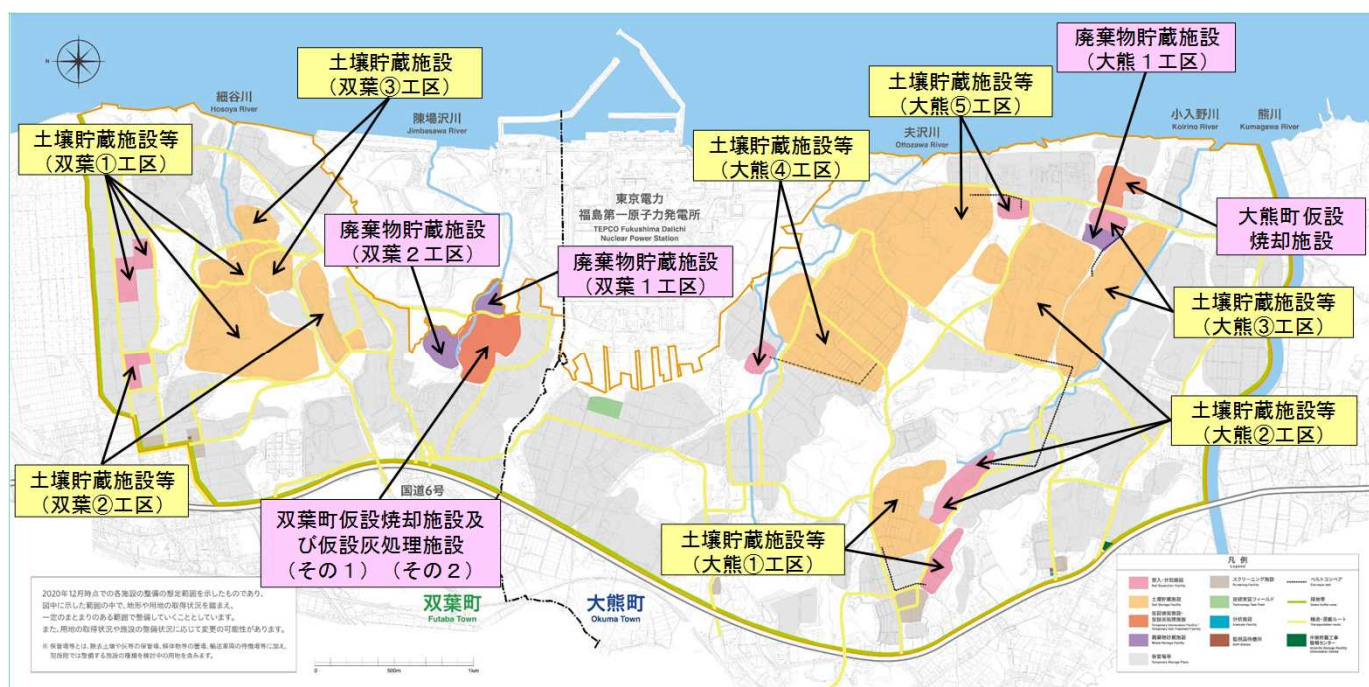
注5) 返地済み : 原状回復等が完了し、所有者へ返地した仮置場等を示します。

再生
福島

中間貯蔵施設の整備の現状

概要

- 放射性物質汚染対処特措法等に基づき、福島県内の除染に伴い発生した放射性物質を含む土壌・廃棄物及び福島県内に保管されている10万ベクレル/kgを超える焼却灰等を最終処分するまでの間、安全に集中的に管理・保管する施設として中間貯蔵施設を整備しています。
- 2016年11月に、大熊町・双葉町において、受入・分別施設、土壌貯蔵施設の整備に着手しました。
- 2017年6月に除去土壌等の分別処理を開始し、分別した土壌について、大熊町では2017年10月、双葉町では2017年12月から土壌貯蔵施設への貯蔵を開始しました。
- 2020年3月に、中間貯蔵施設における除去土壌と廃棄物の処理・貯蔵の全工程で運転を開始しました。



受入・分別施設及び土壌貯蔵施設の整備状況

2022年1月31日時点

・除去土壌の分別処理を行い、1月末時点で、約975.2万 m^3 （輸送量ベース）の土壌を土壌貯蔵施設に貯蔵しました。

工区	大熊①工区	大熊②工区	大熊③工区	大熊④工区	大熊⑤工区	双葉①工区	双葉②工区	双葉③工区
受入・分別施設数※1	1	2	1	1	1	2	1	－
貯蔵容量※2	約100万 m^3	約330万 m^3	約210万 m^3	約160万 m^3	約200万 m^3	約140万 m^3	約90万 m^3	約80万 m^3
貯蔵量※2	99.2万 m^3	277.3万 m^3	123.7万 m^3	113.3万 m^3	160.8万 m^3	72.4万 m^3	86.6万 m^3	41.9万 m^3
着工	2017年9月着工	2016年11月着工	2017年11月着工	2018年10月着工	2018年10月着工	2016年11月着工	2018年1月着工	2018年9月着工
受入・分別施設スケジュール	2018年7月運転開始	2017年8月 2018年7月 運転開始	2018年7月 運転開始	2019年8月 運転開始	2019年8月 運転開始	2017年6月 2018年9月 運転開始	2019年2月 運転開始	(なし)
土壌貯蔵施設スケジュール	2018年7月 運転開始	2017年10月 運転開始	2018年10月 運転開始	2020年3月 運転開始	2019年4月 運転開始	2017年12月 運転開始	2019年5月 運転開始	2019年12月 運転開始
受注者	鹿島JV	清水JV	大林JV	清水JV	大林JV	前田JV	大成JV	安藤・間JV

大熊①工区



大熊②工区



大熊③工区



大熊④工区



大熊⑤工区



双葉①工区



双葉②工区



双葉③工区

(受入・分別施設は整備していない)



左の写真が受入・分別施設、右の写真が土壌貯蔵施設

※1 発注時の1施設当たりの処理能力は140t/時。双葉③工区は、受入・分別施設を整備していません。

※2 貯蔵容量及び貯蔵量は、仮置場等からの輸送量ベース（1袋＝1 m^3 で換算）。貯蔵容量は、用地確保状況等により変更となる可能性があります。

仮設焼却施設及び仮設灰処理施設の整備状況

2022年1月31日時点

・仮設焼却施設及び仮設灰処理施設で処理を行っています。

施設	大熊町	双葉町（その1）	双葉町（その2）
規模	・仮設焼却施設：200 t／日 × 1 炉（ストーカ炉）	・仮設焼却施設：150 t／日 × 1 炉（シャフト炉） ・仮設灰処理施設：75 t／日 × 2 炉（表面熔融炉）	・仮設焼却施設：200 t／日 × 1 炉（ストーカ炉） ・仮設灰処理施設：75 t／日 × 2 炉（コークスベット式灰 熔融炉）
敷地面積	約5.0ha	約5.7ha	約6.8ha
着工	2016年7月伐採・造成開始	2018年6月伐採・造成開始	2018年6月伐採・造成開始
建設工事 スケジュール	2016年12月開始	2019年1月開始	2019年1月開始
処理 スケジュール	2018年2月処理開始	2020年3月処理開始	2020年3月処理開始
受注者	三菱・鹿島JV	新日鉄・クボタ・大林組・TPT JV	J F E・前田JV
外観			

廃棄物貯蔵施設の整備状況

2022年1月31日時点

・1月末時点で、灰処理ばいじんを封入した鋼製角形容器10,225個を廃棄物貯蔵施設に貯蔵しました。

工区	大熊1工区	双葉1工区	双葉2工区
主な建築構造	鉄骨鉄筋コンクリート造（2棟）	鉄骨鉄筋コンクリート造（1棟）	鉄骨鉄筋コンクリート造（1棟）
貯蔵容量※	29,280個	14,678個	30,028個
貯蔵量※	3,877個	6,348個	—
敷地面積	約2.4ha	約2.2ha	約3.7ha
着工	2018年7月 造成開始 2018年12月 建築開始	2018年6月 造成開始 2018年11月 建築開始	2019年12月 造成開始 2019年12月 建築開始
貯蔵スケジュール	2020年4月貯蔵開始	2020年3月貯蔵開始	双葉1工区貯蔵完了後予定
施設整備受注者	鹿島建設	大林組	鹿島建設
定置・維持管理 受注者	鹿島建設		
外観			

※ 貯蔵容量及び貯蔵量は、鋼製角形容器（内寸 約1.3m(幅)×約1.3m(奥行)×約1.1m(高さ)）の個数。



中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送の進捗状況

概要

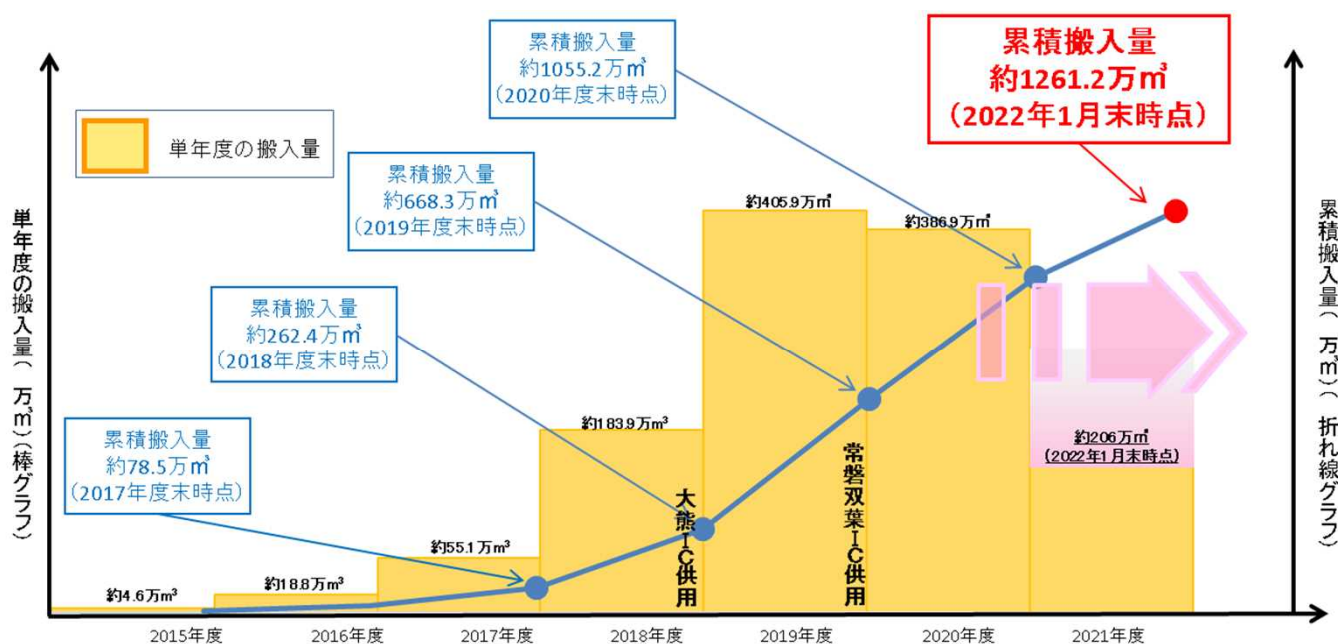
- 安全を第一に除去土壌等の輸送を行っています。
- 2015年3月より除去土壌等の中間貯蔵施設への輸送を開始しました。
- 除去土壌等の仮置場からの中間貯蔵施設への輸送は10tダンプトラックを基本に実施しています。
- 輸送対象物の全数管理、輸送車両の運行管理、環境モニタリング等を行い、安全かつ確実な輸送を実施しています。
- 2022年1月末時点で、累積約1261万 m^3 の除去土壌等（帰還困難区域を含む）を中間貯蔵施設へ搬入しました。



輸送車両の走行状況



中間貯蔵施設からゲートを通して
退域する輸送車両



(注) 2022年度以降は、主に特定復興再生拠点区域における除染等に伴って生じた除去土壌等の輸送を行う予定

中間貯蔵施設への搬入量の推移（帰還困難区域を含む）

<参考>

2021年度の市町村毎の中間貯蔵施設への搬入量（帰還困難区域を含む）※1,2

2022年1月末時点の実績

市町村		今年度の 搬入予定量 (m^3)	今年度の 搬入量 (m^3)	累積搬入量 (m^3)
浜通り	いわき市	23,000	20,267	215,852
	南相馬市	6,000	33,669	990,660
	富岡町	375,000	314,775	1,352,228
	大熊町	130,000	102,237	678,730
	双葉町	93,000	40,065	405,889
	浪江町	250,000	173,815	1,238,458
	飯館村	395,000 ※3	190,361	1,048,484
中通り	福島市	320,000	283,301	1,080,204
	郡山市	188,000	185,366	903,403
	須賀川市	53,000	43,765	198,736
	二本松市	101,000	96,812	444,208
	本宮市	46,000	33,577	215,069
	川俣町	191,000	174,399	628,615
	西郷村	203,000	202,939	691,446
合計		2,374,000	1,895,348	12,611,936 ※4,5

※1 搬入量については、フレキシブルコンテナ等1袋の体積を1 m^3 と換算しています。

※2 可燃物の搬入については、主に減容化後の焼却灰の量を計上しています。

※3 飯館村の今年度の搬入予定量は、中間貯蔵施設への輸送と、環境再生事業として長泥地区へ運搬する分の両方を含みます。濃度測定等の結果、長泥地区の農地として再生利用できないと判断された除去土壌は中間貯蔵施設へ輸送します。

※4 累積搬入量の合計については、「輸送が終了した市町村」の「累積搬入量」を含んでいます（下表）。

※5 楢葉町は2021年度の輸送予定はありません（累積搬入量：391,253 m^3 ）。
2022年度にため池の放射性物質対策により発生した土壌等を輸送予定です。

輸送が終了した市町村※6

市町村	累積搬入量 (m^3)	市町村	累積搬入量 (m^3)	市町村	累積搬入量 (m^3)
会津若松市	1,183 ※7	会津坂下町	1,903	玉川村	1,208
白河市	294,895	湯川村	4,433	平田村	374
相馬市	79,702	会津美里町	2,993	浅川町	287
田村市	190,269	泉崎村	46,025	古殿町	1,352
伊達市	270,646	中島村	14,150	三春町	92,051
桑折町	103,629	矢吹町	32,260	小野町	937
国見町	68,183	棚倉町	10,990	広野町	111,566
大玉村	44,979	矢祭町	140	川内村	199,362
鏡石町	7,980	塙町	737	葛尾村	473,682
天栄村	62,172	鮫川村	296	新地町	7,690
猪苗代町	241	石川町	2,386		

※6 輸送が終了した市町村についても、今後輸送が必要となるものが生じた場合には輸送することになっています。

※7 会津若松市からの累積搬入量は、南会津町、昭和村、下郷町、柳津町、三島町の累積搬入量を含みます。



中間貯蔵施設用地の状況

概要

- 中間貯蔵施設区域は約1,600haであり、予定地内の登記記録人数は2,360人となっています。
- 地権者との信頼関係はもとより、中間貯蔵施設事業への理解が何よりも重要であると考えており、引き続き、地権者への丁寧な説明を尽くしながら取り組みます。

中間貯蔵施設用地の状況について

2022年1月末時点

- 用地取得については、1月末時点で契約者数1,839人、面積約1,265haについて契約しております。

中間貯蔵施設用地の状況について

2022(令和4)年1月末時点

全体面積 約1,600ha	項 目	全体面積に対する 面積と割合	全体登記記録人数 (2,360人※1)に対する 人数と割合
	地権者連絡先把握済み	約1,590ha※1 99.4%	約2,100人※1 89.0%
民有地 約1,270ha (約79%)	契約済 民有地 約1,178ha(+1.2ha) 92.8%※3	計 約1,265ha (+1.6ha) 79.0%	計 1,839人 (+3人) 77.9%※2
公有地 約330ha (約21%)	公有地 約87ha(+0.3ha) 26.2%※4 その他の公有地 約243ha 15.2%	<参考> 約1,508ha (94.3%)	[連絡先把握済みの2,100人に対する割合は、87.6%]

次を含む。
①道路・水路等のように今後も元々の機能を維持する町有地、県有地、国有地等
②事業の進展を踏まえつつ、必要に応じて、中間貯蔵施設用地としての提供・契約を調整する町有地、県有地、国有地等

※1 国、地方公共団体を含む。
※2 民有地1,837人、公有地2人。
※3 民有地(約1,270ha)に対する割合。
※4 公有地(約330ha)に対する割合。

(注)端数処理の関係により合計が一致しない場合がある。また、契約済におけるカッコ内の数字は、前月末からの増加分を表す。

<参考>

地権者の状況について

2022年1月末時点

【地権者】

土地所有者・建物所有者

登記記録 2,360人 ※1

連絡先を把握している地権者 現在の把握数 約2,100人

- 連絡先を把握している地権者の所有地の面積の合計は、約1,590ha
(うち、公有地(国、県、町等の所有地、無地番地)等の面積は、約330ha)となっている。
全体面積(約1,600ha)に対して、99.4%となっている。

- ・建物等の物件調査について個別訪問し協力要請。※2
- ・調査の承諾を得た後に現地調査を実施。※3
- ・物件調査結果に基づく補償金額を算定。

- ・補償内容を丁寧に説明。
- ・補償額を提示。

契約実績

- 契約面積 約1,265ha ※4
- 契約件数 1,839件 ※5

連絡先を把握できない地権者

約260人

(内訳)

- ・死亡が確認できていない方 約250人
- ・登記記録の所有者の記載が氏名のみや、登記名義人が戸籍に該当しない方 約10人

- 連絡先を把握できない地権者の所有地の面積は、約10ha 全体面積(約1,600ha)に対して、0.6%となっている。

戸籍、住民票情報等により、連絡先の調査・確認

※1 相続の発生等により、今後地権者数は増減あり。

※2 調査同意済:約2,070人。

※3 調査実施済:約2,060件。

※4 うち地上権設定:約233ha。

※5 うち地上権設定:155件。

(注) 数値については概数であるため、合計と一致しない場合がある。

再福島

国直轄による対策地域内廃棄物等の処理進捗状況

概要

- ・2016年3月に、帰還困難区域を除いて、津波がれきの撤去と仮置場への搬入を完了しています。
- ・被災家屋等の解体関連受付・調査を行い、順次解体撤去を実施中です。
- ・片付けごみの処理についてステーション回収や戸別回収訪問を実施しています。



大熊町の仮設焼却施設



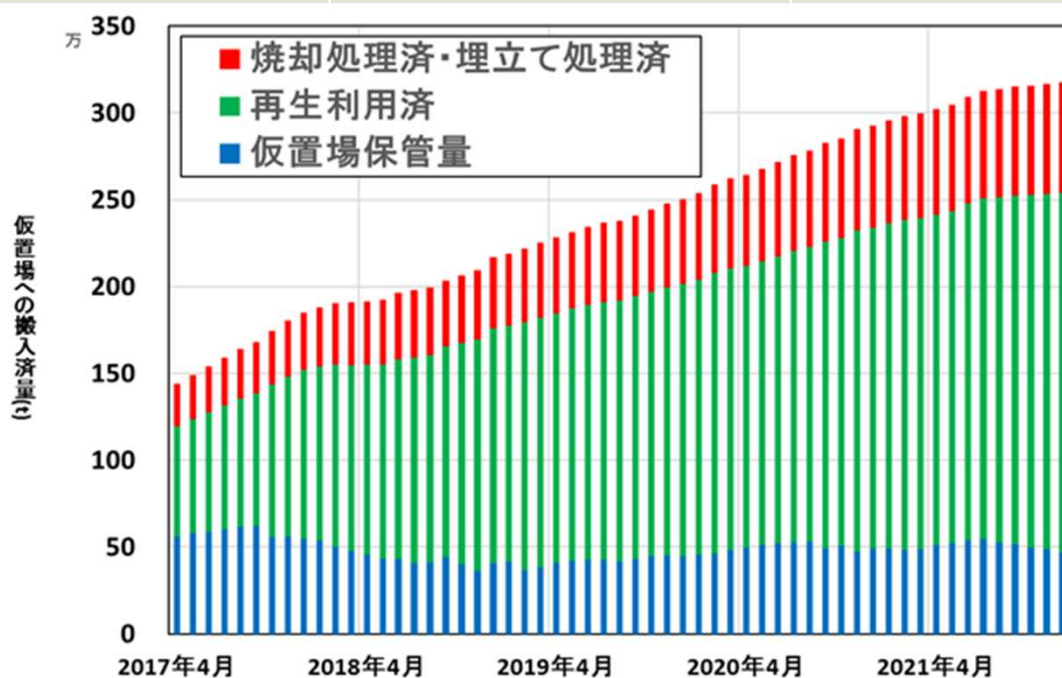
被災家屋等の解体の様子

対策地域内廃棄物等の仮置場への搬入済量等

- ・災害廃棄物等の仮置場への搬入については、12月末時点で、約318万トンの搬入を完了しました（うち、約55万トンが焼却処理済、約207万トンが再生利用済）。

2021年12月末時点

仮置場搬入済量	(うち、焼却処理済量)	(うち、再生利用済量)
約318万トン	(約55万トン)	(約207万トン)



注) 仮置場へ搬入せずに処理する量も含む。

各市町村における被災家屋等の解体進捗状況

2021年12月末時

- ・被災家屋について、12月末時点で、約17,600件の解体撤去申請を受付済みであり、約16,900件を解体撤去済みです。

市町村	解体受付 申請件数 ※	解体済件数	解体申請 受付状況
南相馬市	2,634	2,634	完了
浪江町	4,482	4,313	特定復興再生拠点 区域受付中
特定復興再生拠点区域	479	310	
双葉町	1,138	938	特定復興再生拠点 区域受付中
特定復興再生拠点区域	1,096	902	
大熊町	1,564	1,363	特定復興再生拠点 区域受付中
特定復興再生拠点区域	1,435	1,236	
富岡町	3,742	3,582	特定復興再生拠点 区域受付中
特定復興再生拠点区域	863	703	
楡葉町	1,557	1,557	完了
飯舘村	1,550	1,549	受付終了
特定復興再生拠点区域	90	89	
川俣町	329	329	完了
葛尾村	484	484	完了
特定復興再生拠点区域	47	47	
田村市	19	19	完了
川内村	102	102	完了
合計	17,601	16,870	

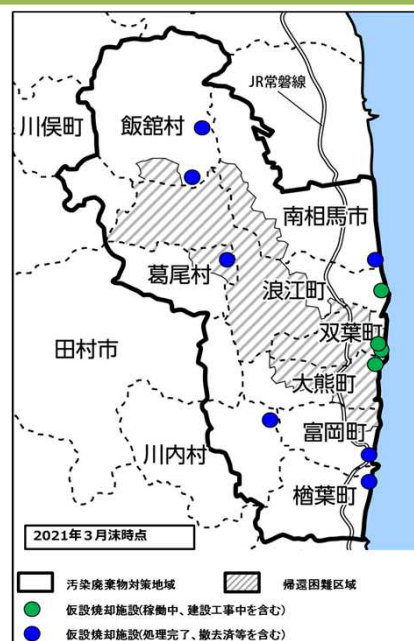
注：1）※当初申請数から取下げ件数を除いた件数です。
2）特定復興再生拠点区域の件数は総数の内数です。

再生。福島

国直轄による対策地域内における仮設焼却施設の設置状況

概要

- ・ 9市町村（11施設）において仮設焼却施設を設置しています。



仮設焼却施設の進捗状況等

- ・ 12月末時点で、約134万トン（除染廃棄物を含む）を各仮設焼却施設で処理しました。
- ・ 各仮設焼却施設それぞれの進捗状況は下表のとおりです。

立地地区	進捗状況	処理能力	処理済量 (2021年12月末時点)
浪江町	稼働中(2015年5月より)	300t/日	約296,000トン(約191,000トン)
大熊町	稼働中(2017年12月より)	200t/日	約93,000トン(約45,000トン)
双葉町	稼働中(2020年3月より)	350t/日	約73,000トン(約20,000トン)
葛尾村	災害廃棄物等の処理完了	200t/日	約131,000トン(約37,000トン)
楢葉町		200t/日	約77,000トン(約32,000トン)
川内村		7t/日	約2,000トン(約2,000トン)
飯舘村 (小宮地区)		5t/日	約2,900トン(約2,900トン)
飯舘村 (蔵平地区)		240t/日	約257,000トン(約54,000トン)
富岡町		500t/日	約155,000トン(約55,000トン)
南相馬市	既存の処理施設で処理 (処理完了)	400t/日	約214,000トン(約91,000トン)
川俣町		—	—
田村市		—	—

※処理済量については、除染廃棄物も含み、()内はうち災害廃棄物等の処理済量です。

特定廃棄物埋立処分施設への搬入状況

概要

- ・ 福島県内の10万Bq/kg以下の特定廃棄物（指定廃棄物及び対策地域内廃棄物）について、既存の管理型処分場（旧フクシマエコテッククリーンセンター）を活用した埋立処分事業を実施。（10万Bq/kgを超えるものは中間貯蔵施設に搬入）
- ・ 2017年11月17日から特定廃棄物埋立処分施設への搬入を開始。



特定廃棄物埋立処分施設 （2022年1月15日撮影）

特定廃棄物埋立処分施設への搬入状況

・1月末時点で、212,677袋を特定廃棄物埋立処分施設へ搬入しました。

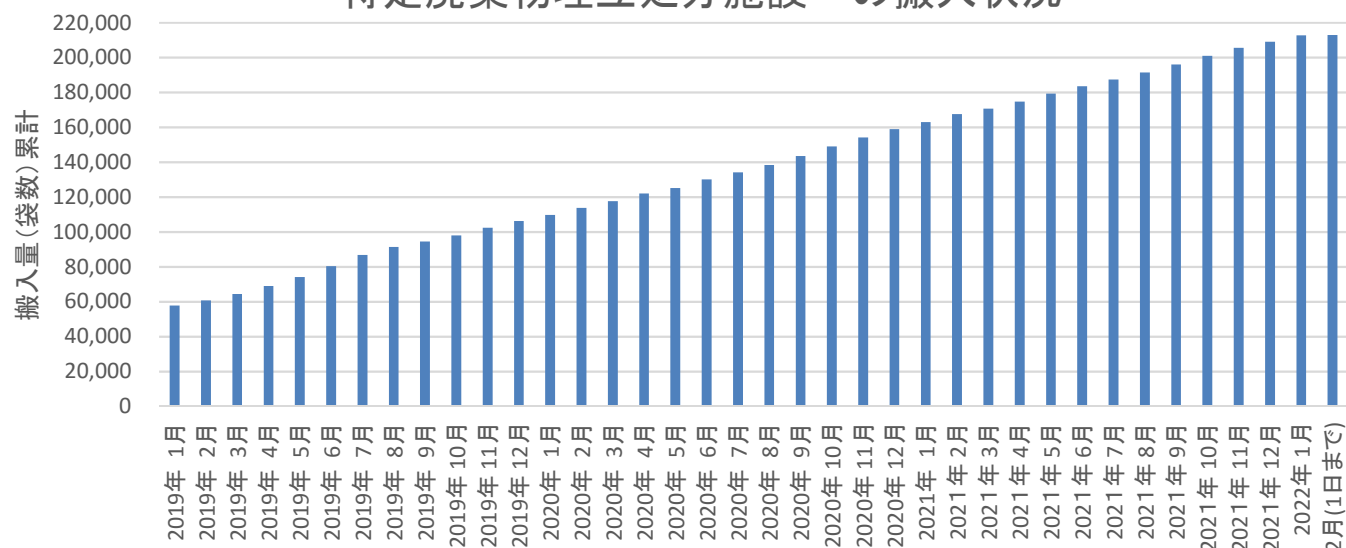
●最新の進捗状況

搬入量（袋数）		
期間	実績（袋）	累計
1/26～2/1	1,079	212,887

●これまでの進捗状況

搬入量（袋数）		
期間	実績（袋）	累計
2021年 1月	163,017	163,017
2021年 2月	4,501	167,518
2021年 3月	3,113	170,631
2021年 4月	4,093	174,724
2021年 5月	4,561	179,285
2021年 6月	4,177	183,462
2021年 7月	3,988	187,450
2021年 8月	3,904	191,354
2021年 9月	4,751	196,105
2021年 10月	4,827	200,932
2021年 11月	4,707	205,639
2021年 12月	3,473	209,112
2022年 1月	3,565	212,677

特定廃棄物埋立処分施設への搬入状況



※搬入は平日のみ実施しています。

※搬入量（袋数）は天候や調整状況により変動します。

2022年 1月
2022年 2月(1日まで)



放射線に関わるリスクコミュニケーション活動状況

概要

- ・環境省では、環境中に放出された放射性物質対策を進めると同時に、放射線や地域の環境再生への取り組みなどについて、分かりやすい情報を提供しています。
- ・放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター、環境再生プラザを主な拠点として活動しています。

これまでの活動状況

1月31日時点

項 目		2021年度 1月分	2021年度 累 計
■ 放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター		(単位：回)	
・自治体職員や相談員等の 活動の支援	研修会	2	12
	専門家派遣	0	8
・住民の放射線に関する 理解醸成の支援	住民セミナー	20	112
	車座意見交換会	2	25
■ 環境再生プラザ		(単位：回)	
・専門家派遣	自治体など	1	30
	小中学校など	0	34
	その他	0	9
・移動展示		0 (0日)	42 (45日)
■ その他		(WBC単位：日) (ガンマカメラ単位：台日)	
・内部被ばく検査 (WBC)の支援		3	60
・ガンマカメラ活用 リスクコミュニケーション支援		8	89

今月の放射線に関するリスクコミュニケーション活動状況

(放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター実施分)

- ◆研修会
 - ・ 1/12 双葉町 (2回)
- ◆住民セミナー
 - ・ 1/7 会津大学短期大学部食物栄養学科 (2学年)
 - ・ 1/13 南相馬市立原町第二中学校 (1～3学年、全8回)
 - ・ 1/16 葛尾村
 - ・ 1/25-26 白河市立みさか小学校 (1～5学年、全10回)
- ◆車座意見交換会
 - ・ 1/17 楢葉町
 - ・ 1/22-23 須賀川市



「放射線の基礎知識と健康影響」について
講義する自然科学研究機構の佐瀬卓也氏
(1/7・会津短大)



「食品に関するリスクコミュニケーション」
について講義する消費者庁の柿谷康仁氏
(1/7・会津短大)

(環境再生プラザ実施分)

- ◆専門家派遣
＜自治体など＞
 - ・ 1/25 鏡石町健康環境課

* 環境再生プラザでは、小学校低学年向け紙芝居『ふくろう先生のなにがおきたの？大しんさい』を新たに作成しました。環境再生プラザHPに掲載している紙芝居はダウンロードできます。

<http://josen.env.go.jp/plaza/>

震災から11年近くが経過し、子どもたちは震災や原発事故を知らない世代となっています。この紙芝居では、放射線学習の前段となる東日本大震災と原子力発電所の事故について、わかりやすく説明しています。



教師が自身の経験談も交えながら紙芝居を上演。
震災当時、福島で何がおきたのかを熱心に聞く児童たち
(12/9・福島第四小学校)



帰還困難区域等における鳥獣の捕獲状況

概要

- ・狩猟や被害防止目的の捕獲を行うことができない帰還困難区域内等において、帰還準備や帰還後の生活、地域経済の再建に大きな支障が生じないように、イノシシ、アライグマ、ハクビシンの捕獲等の対策を実施しています。
- ・事業は5町村（富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村）で実施しています。
- ・野生鳥獣の生息状況調査と捕獲の他、令和元年7月からは捕獲した個体を浪江町の仮設焼却施設内に整備した軟化处理設備で減容化した上で焼却処理を実施しています。



捕獲対策



アライグマの捕獲



焼却施設



イノシシ等の捕獲状況

- ・1月は、イノシシ99頭、アライグマ7頭、ハクビシン4頭を捕獲しました。
- ・今年度の累計捕獲数(1月末現在)は、イノシシ1,347頭、アライグマ256頭、ハクビシン61頭です。

	1月の捕獲数			今年捕獲数累計(1月末現在)		
	イノシシ	アライグマ	ハクビシン	イノシシ	アライグマ	ハクビシン
富岡町	16	1	0	126	27	11
大熊町	11	3	1	299	101	14
双葉町	34	3	0	370	77	17
浪江町	33	0	3	496	43	14
葛尾村	5	0	0	56	8	5
計	99	7	4	1,347	256	61

- ・これまでの各町村別捕獲実績は、下の表のとおりです。また、今年度の月別のイノシシ捕獲数は下のグラフ(前年同月と対比)のとおりです。

各町村別の捕獲実績 ※令和3年度は令和4年1月末現在の実績

単位:頭

			富岡町	大熊町	双葉町	浪江町	葛尾村	合計
イノシシ (平成25, 26年度 はイノブタ含む)	平成25年度		110	26	37	31	—	204
	平成26年度		69	93	93	105	21	381
	平成27年度		46	77	94	51	18	286
	平成28年度		69	288	143	55	33	588
	平成29年度		100	330	271	50	7	758
	平成30年度		201	315	341	47	45	949
	令和元年度		326	717	780	301	12	2,136
	令和2年度		131	900	664	515	42	2,252
	令和3年度		126	299	370	496	56	1,347
合 計			1,178	3,045	2,793	1,651	234	8,901
アライグマ ハクビシン	平成28年度	アライグマ	50	52	42	44	—	188
		ハクビシン	10	14	13	9	—	46
		計	60	66	55	53	—	234
	平成29年度	アライグマ	87	190	244	41	6	568
		ハクビシン	20	25	30	9	8	92
		計	107	215	274	50	14	660
	平成30年度	アライグマ	177	289	314	57	12	849
		ハクビシン	21	27	50	19	11	128
		計	198	316	364	76	23	977
	令和元年度	アライグマ	97	213	234	50	8	602
		ハクビシン	27	10	16	10	2	65
		計	124	223	250	60	10	667
	令和2年度	アライグマ	55	182	128	64	8	437
		ハクビシン	18	21	30	18	3	90
		計	73	203	158	82	11	527
	令和3年度	アライグマ	27	101	77	43	8	256
		ハクビシン	11	14	17	14	5	61
		計	38	115	94	57	13	317
	合 計	アライグマ	493	1,027	1,039	299	42	2,900
		ハクビシン	107	111	156	79	29	482
		計	600	1,138	1,195	378	71	3,382

(頭)

イノシシの月別捕獲数

